

昭和55年度新城ゆるさこ講座で発表した原稿
 浅井重雄先生への取材
 昭和55・5・11(日)
 山本

孝太郎を招き講演会
 長福中学校代校長、浅井重雄先生は、孝太郎とかかわりの深い方である。当時、図書館充実のための予算を役場からいたたき、子どもたちの図書を購入した。そのなかに、郷土の先輩の本も集めようということで、孝太郎の著書も探した。

昭和二十四年一月三十一日、豊橋に行き「花祭」という本を買い求めた。上下巻三千五百円であったが、宝物を得たような気持ちで冊々と迷ったと述懐しておられる。その後、二十六年七月二十八日、長福中学校に孝太郎を招き、生徒たちに話をしてもらった。今から九州の南の方の島の民俗調査に行くという内容の話だったかと思う。その折に、何か子どものために思い出話を書いてほしいとお願ひし、「橋城」(二十八年二月二十日発行第四号)に口絵と、「小学校の思い出」を書いていただいた記憶がある。

ちょっとやせ型で、実に地味な方であり、学者であるが偉ぶような風は全く見せない方であった。宿直室に泊ってもらい、一夜ゆっくり話をした。

昭和三十一年十二月、孝太郎が死去されたことを知り、お悔み状と香典を送ったところ、奥様から次のような札状をいただいた。

謹啓 早川孝太郎の生涯を通じ御懇情をお寄せ下さいましたことを厚く御礼申し上げます。不幸に際しましては御手厚い御心づかいを頂きまして御礼の言葉も存じませぬ。告別にお呼びかけ下さいました暖い御心を早川の魂に必ずまいりましてお受け致しましたことと信じます。本日忌明けに当り心から御礼申し上げます。法名 春秋院花泉沙月でございます。

七月初旬旅行から帰宅間もなく発病八月十二日警察病院に入院致しました。当初憔悴にもなる助産院ということでしたが十月に至り右助産院被細胞腫と絶望の病名決定しました。本人に知らせず早川は最前まで再起を信じておりました。腫瘍学園の教え子より定期的に輸血をして頂き御見舞下さった方々には退院後の仕事の計画を語り感謝にみちた病床でございました。十二月二十日六十七才の誕生日を迎えましてから急に悪くなりました。一昨年ようやくささやかな書齋をつくり藤岡先生の信濃から資料を取りよせたばかりでございます。不承不承には今後を早川を遠い旅の人として二人の子と共に歩むほかないと思ひます。どうか御目守り願きとう存じます。

一月二十六日
 早川 智恵

平成18年
 没後50年

平成18年度 新城市めぐせ明日のまちづくり事業として各地でグループが活動を展開している。「峯狭間開発委員会」は、早川孝太郎の文学作りの研究とその宣伝事業をテーマとして、右の新聞記事のように活動している。ありがたいことである。



(撮影 山本)

(新城市大野中野山好)

民俗学研究 多大な業績
 早川孝太郎氏の看板できる
 出生地 新城

「花祭」の書作で、民館に設置された。知られる新城出身の民俗学者、早川孝太郎氏(現新城市横川)が、同市横川の横川公 従事し、「三州横山話」

1921年「猪・鹿・狸」(26年)はじめ、大著「花祭」(30年)など発表。数々の偉大な業績を残した。

今回、地元の住民タム

早川孝太郎氏を紹介する看板「新城市横川で」

○新城市長篠(鳳来町長篠)の奥三河書房には、『早川孝太郎資料室』があり、伊藤博彦・敏女ご夫妻が資料集めや研究出版も手かけてみえる。また孝太郎をしのぶ「歩月忌」の会も開いている。

○「写真で綴る早川孝太郎の生涯」研究されている方々の参考になればうれしい。

(11月7日 火曜日 版)